

研究主題 小・中学校特別支援学級（知的障がい）における 領域・教科を合わせた指導の充実に関する研究

—県内特別支援学級の現状を踏まえた

「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」の作成を通して—

【研究担当者】 菅原 敦彦

【この研究に対する問い合わせ先】

Tel 0198-27-2821 FAX 0198-27-3562

E-mail sien-r@center.iwate-ed.jp

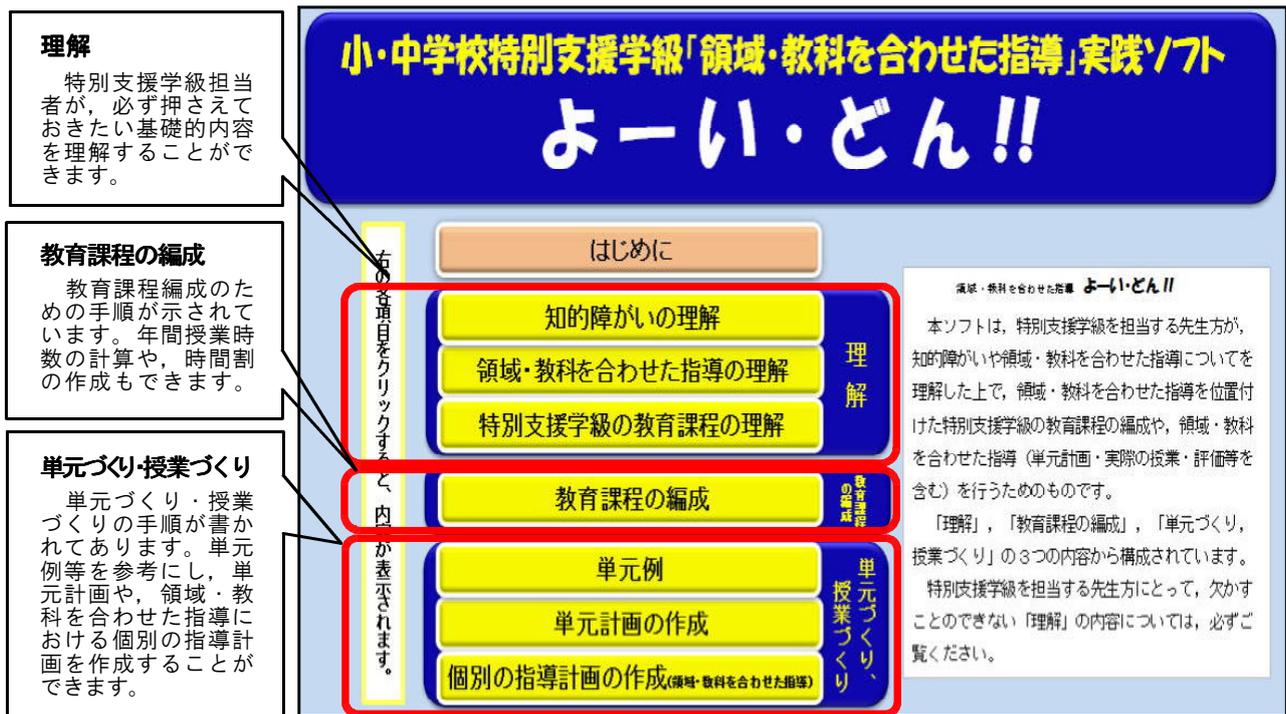
研究の概要

岩手県内小・中学校知的障がい特別支援学級の「平成22年度特別支援学級（知的障がい）教育課程届書」に基づいて集計したところ、特別支援教育の経験が3年未満の特別支援学級担当者の割合は、小学校で51.0%、中学校で64.1%でした。さらに、特別支援学校教諭等免許状の保有率も低い現状にあることが分かりました。教育課程の概要においても、領域・教科を合わせた指導の位置付けが整理されていない学校が見受けられ、教育課程の理解や編成作業の方法等を十分に理解せずにいる担任等が少なくはないものと推察されました。また、小・中学校共に、領域・教科を合わせた指導の時数が少なく、生活に結びついた実際の・具体的な学習活動を中心に据えた学校生活とはなっていないということも推察されました。

そこで、特別支援学級担当者が、知的障がいのある児童生徒の特性等を含めた知的障がい教育や、特別支援学級の教育課程、領域・教科を合わせた指導に関する基礎的内容を理解し、実際の単元・授業づくり等を行うことができる「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を作成することにより、小・中学校における知的障がいのある児童生徒への適切な指導及び支援の充実に役立てようと考えました。

小・中学校特別支援学級「領域・教科を合わせた指導」実践ソフト よーい・どん!!の概要

「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を作成し、指導実践を通して修正・改善したものが、『小・中学校特別支援学級「領域・教科を合わせた指導」実践ソフト よーい・どん!!』です。このソフトは、表計算ソフト「エクセル」を使用し、トップページ、「理解シート」群、「教育課程の編成シート」群、「単元づくり、授業づくりシート」群の各シート群で構成しています。「理解シート」群は、知的障がいや、領域・教科を合わせた指導、教育課程についての基本的な理解を図るものです。「教育課程の編成シート」群は、対象となる児童生徒が在籍する学年の標準授業時数や、小・中学校及び特別支援学校の指導形態を参考にしながら、教育課程の編成や時間割の作成を行うためのものです。「単元づくり、授業づくりシート」群は、単元例シートを基に、単元を計画するためなどのものです。



1 「理解シート」群

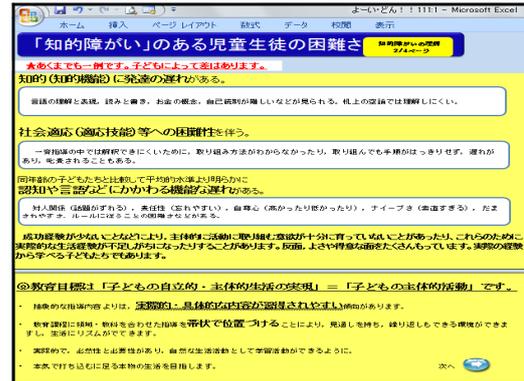
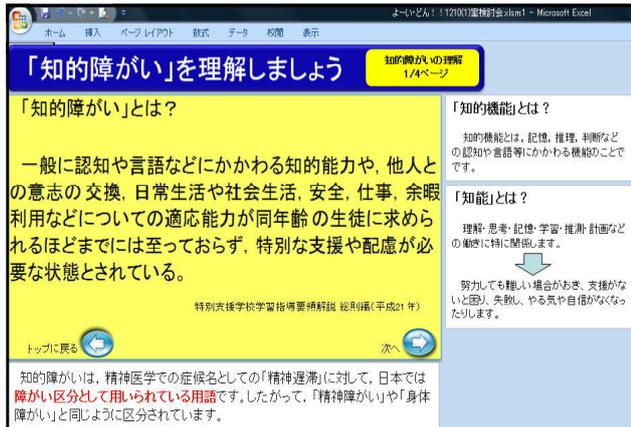
特別支援学級担当者が、領域・教科を合わせた指導を充実させるためには、児童生徒の理解や特別な教育課程の編成等を適切に行うことが必要です。

この「理解シート」群では、「知的障がいの理解」、「領域・教科を合わせた指導の理解」、「特別支援学級の教育課程の理解」について、図や表をまじえながら取り扱っています。

知的障がいの理解

知的障がいを理解した上で、次ページからの困難さや基本原則を理解することにより、知的障がいの特徴や配慮事項について理解できるよう示しています。

児童生徒の実態把握のために覚えておきたい児童生徒の困難さを示しています。これらは、一般的な内容であり、実際には、一緒に活動することで児童生徒の特徴が見え、単元計画につながります。



領域・教科を合わせた指導の理解

下図の「詳しい説明は、ここをクリック」をクリックすると、右図のように、それぞれの具体的な指導内容等が表示されます。



日常生活の指導 領域・教科を合わせた指導の理解 2/6ページ

遊びの指導 領域・教科を合わせた指導の理解 3/6ページ

生活単元学習 領域・教科を合わせた指導の理解 4/6ページ

作業学習 領域・教科を合わせた指導の理解 5/6ページ

生活単元学習「クリスマス会を開こう」 領域・教科を合わせた指導の理解 6/6ページ

「作業学習」とは？
作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。

「作業学習」では？
農耕、園芸、紙工、木工、縫製、織物、金工、窯業、セメント加工、印刷、調理、食品加工、クリーニングなどのほか、販売、清掃、接客なども含む多様である。

「作業学習」の指導計画を作成するに当たって考慮する点

- (ア) 生徒にとって教育的価値の高い作業活動等を含み、それらの活動に取り組む喜びや完成の成就感が味わえること。
- (イ) 地域性に立脚した特色を持つとともに、原料・材料が入手しやすく、持続性のある作業種を選定すること。
- (ウ) 生徒の実態に応じた段階的な指導ができるものであること。
- (エ) 知的障害の状態等が多様な生徒が、共同で取り組める作業活動を含んでいること。
- (オ) 作業内容や作業場所が安全で衛生的、健康的であり、作業量や作業の形態、実習期間などに適切な配慮がなされていること。
- (カ) 作業製品等の利用価値が高く、生産から消費への流れが理解されやすいものであること。

題材「オリエンテーション」

- ・ 目的を日頃、お世話になっている親や先生を招待しようとした。
- ・ 生徒は「盛り上げるためには、必要なものがある」と話すなど、自分たちで考えいき、担当リーダーを自分たちで割り当てた。

題材「クリスマスツリー、キャンドル、クリスマスリース作り」

- ・ 題材の各リーダーは、仲間にも教えるために試作品の作成や工夫を凝らしながら作品づくりに集中し、完成すると「わーっ」と盛り上がった。

【教科別の指導における生活単元学習との関連】

国語「招待状」

- ・ 字を筆で、大卒の大きさ、配列などについて理解して、秘密で書く。
- ・ 招待する立場での丁寧な言葉遣いを覚える。
- ・ 案内する人への宛名を正確に書く。

上図の「生活単元学習の実際は、ここをクリック」をクリックすると、右図のように、生活単元学習の授業の様子が写真付きで表示されます。

特別支援学級の教育課程の理解

通常の学級の教育課程と特別支援学校(知的障がい)の小学部・中学部の教育課程の構造図を示したシートです。

特別支援学級は、特に必要がある場合には、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領を参考に、子どもの障がいや発達段階に応じた特別な教育課程を編成することができます。

そこで、特別の教育課程の構造と通常の学級の教育課程を比較しながら、教育課程の理解を促すことができるようにしています。

2 「教育課程の編成シート」群

実際に特別支援学級の教育課程を編成する際に、教育課程の編成手順を知った上で、どのような指導の形態を教育課程に位置付けるか、時数はどの程度設定するかなどを検討することが必要です。

そこで、以下のように、教育課程の編成手順を示し、教科や領域、領域・教科を合わせた指導等の選択や、時数計算ができるようシートを構成しています。

教育課程の編成の手順を示しています。これにより、教務主任等と連携しながら、児童生徒一人一人のニーズに合った時間割の作成が、スムーズにできます。

また、特別支援学級の時間割例を示し、带状とした時間割が、特別支援学級に在籍する児童生徒にとって、分かりやすい日課となっていることを示しています。

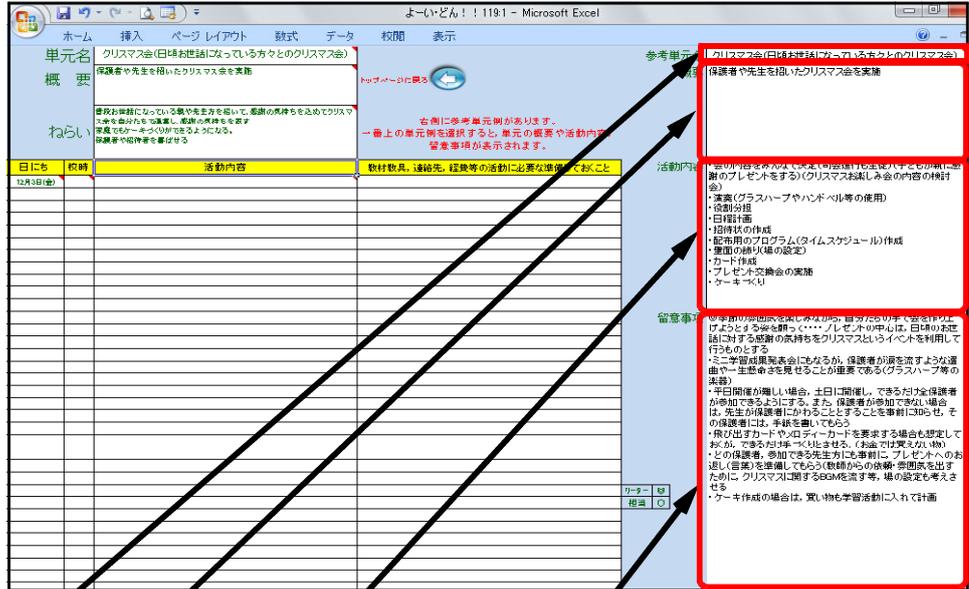
さらに、教科等の週あたり・年間時数を関連付けながら、時間割を設定することができるように示しています。

3 「単元づくり・授業づくりシート」群

領域・教科を合わせた指導の単元例等についてを資料として示し、単元を計画したり児童生徒への支援の最適化を図るための指導計画を作成したりすることを援助することができるよう構成しています。

特別支援学級担当者が単元を計画する際の作業量が多くならないよう、必要最小限の項目のみの枠となっています。

また、一つ一つの活動内容に必要な教材教具等を記録して、実際の授業の準備に役立てることができるよう枠を設けています。シート右側の参考単元は、下の「単元例シート」とリンクしており、参考単元名の枠をクリックすると、単元例の中から、参考となる単元の活動内容や留意事項等が表示されます。



日次	指導形態	単元	概要	活動内容	留意事項
11	生活単元学習	クリスマス会(日本語が話さな い方々のクリスマス会)	保護者や先生を招いたクリスマス会を実施	会の内容をみんなで決定(司会進行を生徒)(子どもが親に感謝のプレゼントをする)(クリスマスお楽しみ会の内容の検討会) 演奏(グラスハーブやハンドベル等の使用) 役割分担 日割計画 招待状の作成 配布用のプログラム(タイムスケジュール)作成 裏面の飾り(編の決定) カード作成 プレゼント交換会の実施 ケーキ作り	多人数の帯回を実施しながら、自分たちの手を盛り上げようとする姿を顕著に……プレゼントの中心は、日本語が話さな い方々のクリスマスというイベントを利用して行うものとする ミニ学習成果発表会にもなるが、保護者が演説をするような道 徳や一生懸命を見せることが重要である(グラスハーブ等の 表紙) ・平日開催の場合は、本日に開催し、できるだけ保護者 が参加できるようにする。また、保護者が参加できない場合 は、先生が保護者にかかることとする(事前30分前、そ の保護者には、手紙を書いてもらう) ・飛び出しカードやハンドベルを要求する場合は事前に お礼、できるだけ手づくりさせる。(お返しは買えない物) ・どの保護者、参加できる先生にも事前に、プレゼントへのお 返し(言葉)を準備しておく(教師からの依頼・児童が出す ために、クリスマスに関するSDMを説き等、場の設定も考えま さる) ・ケーキ作成の場合は、買物も学習活動内に計画
12	生活単元学習	クリスマス会(日本語が話さな い方々のクリスマス会)	保護者や先生を招いたクリスマス会を実施	目的をみんなで決めること話し合い ・作業工程、材料等を考える ・材料の購入 ・クリスマスボードのイメージ化 ・クリスマスボード作りの役割分担 ・招待状作り ・ポストカード作り ・お礼状作り ・絵巻物や飾りの会等で紹介や量の決定(委員 会)や派手な紹介する人物により、未定者中心に決 定生活へ	・発注した材料を事前に準備、スケジュールの作成) ・着実に取り組む、活動を継続できるように、できる状況づくりの ための補助器具や用具の準備を行う ・演説、感想がわかるように、役割分担をしっかりと行う ・みんなで力を合わせ、準備を進めていく。途中、新しいアイデア や問題が発生したら、即作業を停止し、みんなで話し合い、方向性を 再修正していく ・分担当で力を発揮しているよう、専門分野として取り組む ・大きい物については、仲間の応援も必要であるため、その際は、み んなで協力する ・「失敗は宝」としながらも、失敗しないような補助材料や道具を予 め準備しておく ・子どもが自分なりに活動できるような時間をしっかりと確保する ・おでん(「買物学習」)と関連づけた活動 ・特別支援学級担当者が主任となる交流を重視した ・できるだけ保護者の手を借りずに実施できるようにする ・「おでん」チーム内に競争心が生まれない場合は、交流学級担任に協力 を依頼し、「おでん」用品が確保できない場合は、手づくりの食品を準備 する(おでん以外の年次目標達成のために手づくりのおでんやデザート
13	生活単元学習	バザーを一緒にやって交 流を深めよう	PTAバザーの場を借りておで んの材料を購入し、調理してお でんという流れと、ゲームのお 店を開店	目的を確認し、できること話し合いで決める ・買物 ・必要な食品がどこで買えるか調査 ・ゲーム用品の収集(案内がポストカード、チラシを作 り、集める) ・ゲーム内容は、その日の状況(実行案)を考慮	

「単元例シート」では、参考となる単元の指導形態、単元名、概要、学習活動、留意事項を示しています。読みやすいように簡条書きで示しています。また、追記可能になっていることから、各学校において、新たに実践した単元をこのシートに入力することにより、データベースとしての充実につながるよう、空欄の枠を設けています。

研究の成果と課題

1 成果

- (1) 「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」は、特別支援学級の教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する基礎的内容の理解が図られました。
- (2) 「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」は、具体的な事例を示していることにより、特別支援教育の視点による実践への見通しをもつことにつながりました。
- (3) 「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を使用した実践により、生徒一人一人が自立に向け、主体的に十分に活動することにつながりました。

2 課題

「教育課程や領域・教科を合わせた指導に関する資料」を修正・改善した『小・中学校特別支援学級「領域・教科を合わせた指導」実践ソフト よーい・どん!!』について、単元例を増やしたり、シートへの入力をしやすくしたりするなど、さらに改善を図る必要があります。

研究内容の詳細は、当センターWebページに記載しております。作成した『小・中学校特別支援学級「領域・教科を合わせた指導」実践ソフト よーい・どん!!』は、同ページに掲載する予定です。